

子犬と男の子 を振り返って・・・

「子犬セール中」の札を見て、ある男の子がペットショップを訪れた。店のオーナーに連れられて子犬が数匹現れたが、1匹は足が不自由だった。男の子は、この足の不自由な犬が欲しいと言う。オーナーの「お金はいらない」との申し出にも関わらず、男の子は「他の子犬と同じ値段で買う。」と言った。それはなぜなのか。みんなで話し合いました。

<みんなの感想より>

- どんな生き物でも命は大切だし、生き物を飼うときでも、しっかりいのちの大切さを知って、その命を預かるということをしっかり責任感をもって飼わないといけないと思った。それに命はみんな一緒なのに、差別したりするのはよくないと思う。男の子が子犬を無料で上げると言われたときに、自分もこういう経験があって、嫌な気持ちになったからおじさんをにらんだのかなと思います。
- 男の子が子犬をちょうだいと言った時に、やめておいた方がいいと言ったけど、気持ちが強く、「ただであげるよ」と言ったけど、男の子はそれでは意味がないといったのは、同じ命だし、不自由だからといって、他の犬と差をつけてほしくなかったのだと思います。それは自分も足が悪く、周りの人と差をつけられて、健康な人と比べられるのが嫌だから、その犬を同じ気持ちにさせないように、同じ値段で買ったのだと思います。足が不自由でも力強く歩いているところが、とても印象に残っているし、がんばっているんだと思いました。
- 男の子にとって、その子犬は運命の出会いに近いものだったのではないだろうか。私は、五体満足に生まれてきて、大きなけが（骨折）とかもしたことがないから、そういう人たちの気持ちは理解しきれないかもしれないけど、この話は人間どうしても一緒ではないだろうか。体が不自由な人の気持ちによりそい、理解しようと試みることが重要ではないかなと思う。障がいがあったとしても、命がある限り平等なわけで、おじさんが“こいつは売れない”と思っていたように健常者とは違うというような意識を持つてはならないと思う。
- 人でも犬でも、どこかが悪いからといって特別扱いをするのはよくないと思いました。オーナーは子犬を商品として扱い、男の子は子犬を一つの命として見ていた。一つの命を買うという以上私なら子犬を買う決断をすぐにはできないと思います。
- おじさんが、ただでいいと言ったとき、男の子は子犬だけでなく、自分も差別されたように感じたんじゃないかな？と思った。ケガをしている人への対応にあらためて気をつけないといけないと思った。
- 人間であっても犬であっても、手や足が不自由だからといって、他と違う目で見るのは良くないと思う。このお話に出てくる男の子はすごく心が優しいんだなと思ったし、こうしてみんながみんなを大切にできるように、ちゃんと考えていかなあかなと思った。